



杉谷ひろば

杉谷さんとともにまちを創る会
2022年 5月 1日発行

5月号 向日市上植野町西小路3-4
No. 134 杉谷ひろば(連絡先は頁下)

市民参加でまちを変えよう！ ホームページ: <http://sugi.pupu.jp/>

ロシアのウクライナ侵攻

軍事支援でなく停戦外交を!



向日市議会議員 杉谷伸夫 所属政党なし
上植野町イトーピア在住。大阪生まれ。京都大学工学部卒業。GSユアサ(旧日本電池)勤務を経て、2011年より向日市議会議員3期目。67才

ロシアによるウクライナへの侵略戦争が、ますます長期化しそうです。ウクライナのまちは破壊され、おびただしい犠牲者が出ています。一刻も早い停戦と犠牲者の回避が求められます。欧米諸国は、ウクライナへの軍事支援とロシアへの懲罰一辺倒です。ロシアに「根を上げさせる」作戦でしょうが、これは事態を悪化させ、長期化は必然です。

ロシアとNATOの軍事同盟間の勢力争いが根本にあり、ウクライナ国民を犠牲にしてウクライナを戦場に争っているようなものです。ロシアの違法で一方的な軍事侵攻が悪いのはもちろんですが、今のやり方では、多くのウクライナ国民の命が奪われ続けます。一方で、大喜びなのは、

アメリカの軍需産業とエネルギー産業でしょう。戦争を解決策にしてはなりません。どんなに困難でも、外交でしか解決できないことを心すべきだと思います。(4月30日・杉谷伸夫)

7月から、1人5千円の向日市おうえん割引クーポン

使える対象は「市内で一般消費者向けに商品・サービスを提供する」事業者すべてです(登録要、チェーン店は除く)。昨年末に全世帯に配布された1世帯4,000円の「向日市お買いもの応援クーポン」では、「使えるところが少ない!」との声が多く寄せられました。スーパーやコンビニはごく一部の店を除いて使えず、小売り・飲食店以外のサービス業(美容室やクリーニング、各種工事等々)の登録店舗は、わずかでした。こうしたお店は「対象外」と思われていた可能性があります。そこで私は「クーポンの名称変更」を提案し、

催し等のご案内

- 5/12(木)~14(土) 沖縄復帰50年 『沖縄・辺野古は今』写真・映像展
 - 会場: 向日町会館(競輪場正面ゲート南隣)
 - 時間: 10時~17時(12日は10:30から)
 - 主催: 沖縄写真展の会
- ★ 5/14(土) 10時~12時: ビデオ上映&交流会

これが採用されたようです。今回は前回の3倍程度の規模です。多くの店が登録され、皆が使いやすいクーポンにして頂きたいと思います。また住所・氏名の記入強制も無くすよう求めます。

LINE公式アカウント登録してね!



連絡先

ご相談はまずお電話を! TEL 090-8384-5984(携帯) FAX 075-921-4101
メール peace@fa2.so-net.ne.jp ホームページ <http://sugi.pupu.jp/>

5月15日・沖縄復帰50年記念の日

「基地のない平和な島」の願いは・・・

5月15日、沖縄は本土復帰50年を迎えます。先の大戦で、日本で唯一激烈な地上戦が戦われ、約20万人が犠牲となった沖縄。戦後は本土から切り離され、25年後のこの日ようやく日本の施政下に復帰しました。しかし『軍隊のない平和な島』の願いは遠く、さらに新たな基地建設が進められています。

●辺野古の米軍新基地建設は今？

辺野古の海を埋め立てることに対し、3年前の県民投票では7割の県民が反対しましたが、政府は無視して埋め立てを強行しています。辺野古漁港側の浅瀬は大半が埋め立てられましたが、最大深度90mの大浦湾側は未着手で、全体の進捗率はいまだ1割未満です。

大浦湾の海底は、マヨネーズ状の超軟弱地盤が広がっているため、世界でも未経験の大規模な地盤改良が必須で、全面的な設計変更が必要です。しかも活断層が走っており、たとえ埋め立てても震度2程度で崩壊するとの専門家の指摘があるため、沖縄県知事は設計変更を承認していません。たとえ国が強権的に執行しても、完成には最低でも12年の歳月と2.5兆円以上かかると言われます。県民の民意をふみにじり、ジュゴンのすむ生物多様性に富む大浦湾の自然を破壊してまで、米軍基地を作る正当性は全くありません。

●沖縄の島々で、次々にミサイル基地建設

近年、沖縄島だけでなく、台湾に近い与那国島、石垣島、宮古島や鹿児島島の奄美大島、馬毛島など「南西諸島」と総称される島々に、対中国戦争をにらんだ自衛隊のミサイル基地やレーダー基地、駐屯基地が急ピッチで建設され、部隊配置が進められています。

ウクライナ戦争の事態を受けて、政府・自民党は「敵基地攻撃能力」をしきりに口にしています。その最前線が沖縄です。もし「有事」となれば、まず沖縄の島々が戦場になるのは明らかです。

沖縄周辺に続々と配備が進む軍事基地



●「ノーモア沖縄戦 命どう宝の会」が全国に呼びかけ

こうした中で沖縄の人々は、再び沖縄の島々を、「南西諸島」全域を戦場にさせまいと、去る1月31日「ノーモア沖縄戦 命どう宝 (命こそ宝) の会」を設立し、沖縄県内、そして全国に「戦争反対」「外交で平和を築こう」と発信しました。沖縄からの呼びかけに応え、ウクライナ戦争の平和的・外交的解決でなく、この事態に乗じて軍備強化と戦争準備へひた走る政府の暴走を止めるため、私たちが共に声をあげましょう。

5/12-14写真・映像展 「沖縄・辺野古は今」

- 10時～17時・向日町会館(競輪場ゲート南隣)
 - 辺野古・大浦湾：生物多様性の海
 - 埋め立て強行される辺野古の今
 - ドローンが写した、沖縄の島々で進む自衛隊ミサイル基地建設の実態

日曜に発熱—検査は翌日待ち

ある日曜日の夕食後、急に寒気がした。熱を測ると37.6℃。やばい！コロナだ。まず家族と離れなければ。いそいそと準備して、自転車で2分の事務所に移動し、2階のベッドに潜り込んだ。

さて日曜夜に検査してくれるところはあったらどうか？すぐに頭が回らない。そうだ、保健所に相談しよう（※平日なら検査してもらえる病院と検査時間の一覧が公表されています—末尾参照）。

乙訓保健所に電話する。すぐつながった。「発熱したんですが、どうすれば良いでしょうか？」—「検査した方がいいですね。」—「今日、検査してくれるところありますか？」—「日曜なのでね、一般病院で検査できることはありません。」—「やっぱり。」—「でもA病院かB病院なら、電話すれば検査してくれると思いますよ。」…やった！聞いてみるもんだ！と喜んだが、ぬか喜びだった。2つの病院とも、「日曜日はやってません。明日9時以降に電話で予約してください」と断られてしまった。—「やっぱり！」

隔離生活には社会のサポートが必要

朝まで待つしか無い。もしコロナだったら？誰かにうつした可能性はないか？と心配になる。まだコロナだと決まったわけでもないが、心当たり的人や、参加した集まりの主催者には電話して事情を説明する。自分が重症化することは全く頭になく、そちらの影響の方が心配になる。同居家族は全員濃厚接触者となるので、2人の息子は結果が判明するまで仕事に行けないし、もし陽性だったら更に最低4～5日はアウトだ。これは非常にマズイ！。わかっていたこととはいえ、現実自分が直面すると深刻だ。人によっては、コロナで寝込むより、家族全員が長期間仕事に就けないダメージの方が深刻な問題かもしれない。濃厚接触者は隔離が必要だ。しかし誰もが安心して隔離生活できるように、経済的・社会的サポートが不可欠だと思う（後日、そのための予算を概算してみたが、たかがしれている）。

翌朝、2つの病院に電話した結果、A病院で検査を受けた。A病院は、検査結果が翌日昼頃に出るとの返事に対し、B病院は「2～3日かかる」との返事だったためだ。この1、2日の差は大きい。それにしても、いまだに「2～3日」もかか

るのか？どうなってるの日本は？

検査の翌日、熱は39℃に達していた。絶対コロナだ、と覚悟を決める。正午すぎ、病院から電話がかかってきた。結果は意外なことに「陰性」。よかった。でもこんなに発熱してしんどいのに「陰性でした」で終わり？ホントか？間違いじゃないのか？疑問がフツフツとわいてくる。

陰性—では、発熱の原因は？

私の知人が、発熱したけど「陰性でした」で終わってしまった。後日受診したら原因は別の病気だったが、対応が遅れたため重症化して長らく入院したことを思い出した。これで一件落着いておかし。発熱の原因を調べてもらわなくては。改めて病院に電話する。「コロナ陰性はわかりましたが、熱が下がりません。原因を調べてもらえませんか？」⇒結局、すぐ病院に行って調べてもらった。検査の結果を見て医師から、「肝機能の数値が異常です。このまま帰すわけにはいかない」と告げられ、即刻入院となる。予想もしない展開だ。



4日間の入院・検査の結果、判明した病名は「薬害性肝障害」。原因は、発熱までの10日間ほど服用していた別の薬によるものでした。しかしこの薬はありふれた薬で、たまたま私の体に合わなかったようなのだ。そういうことは、「まれに有る」らしい。「薬は怖い！」つくづく思い知った。

現在、発熱症状があると、まず発熱外来でPCR検査を受け、陰性を確認してからでないで診察してもらえない。そのため受診が数日遅れ、真の病気の発見が遅れる可能性がある。また検査結果が「陰性」だと「よかった。一件落着」で、発熱の陰にある真の重大な原因が究明されないままになることもありそうだ。私の知人のように、あわや命取りの可能性もあるのだ。

以上、誰もが直面しそうなことなので、参考にしてください。（杉谷）

※発熱症状がある時の、
診療検査医療機関の
一覧（乙訓地域）



非暴力抵抗 こそ民を守る

安野 洋子

連日見るニュースは、ウクライナの問題。この戦争は、忘れもしない私の誕生日2月24日から始まった。悲惨な様子が映され、戦争だけはイヤという気持ちが湧き上がる。「国」と言うと生まれ故郷の風景が浮かびほっとするが、それに「家」がつき「国家」となると威圧的になり、嫌な感じになるのは私だけか。

この戦争でウクライナが戦う姿を見せているが、これでは長引くだけではないか。ロシアはウクライナの東部が欲しいのだったら、それは認めることにして引き下がってはとってしまう。

最近腹立たしいと思ったことは、ウクライナの大統領がリモートで日本の国会でおこなった演説に対し、国会を代表して挨拶した山東昭子参議院議長が「閣下が先頭に立ち、貴国の人々が命をも

顧みず祖国のために戦っている姿を見て感動した」と言ったことだ。開いた口がふさがらない。まるで戦時下の国防婦人会のようではないか。

この戦いの中、中国人の歴史学者・葛兆光（ゴチャウワン）さん（東大・京大でも特任教授）が、プーチンは帝国時代の領域意識を持っている、そしてそれは「歴史的権利」を叫ぶ中国にも続いていると述べていた。第一次大戦が終わる頃には、伝統的な帝国は滅亡したものの、ロシアと中国だけが依然として帝国に等しい巨大な領土と複雑な人間集団を引き継いでいるという。それに欧米主導型の秩序への抵抗もあるという。これからの世界の歩みを、力が支配する時代に戻してはならないと。ロシアや中国が、帝国時代の観念で世界を考えることをやめさせなければと思う。

しかし国連でも、ロシアへの制裁に反対や棄権する国々が1/3を占めるという。世界は欧米中心の国々と、中国中心の国々とに二分されることになるのかとってしまう。日本はその世界の中で、どういう立場で存在していくのか試されているのだ。

そんな折、4月半ばに映画監督の想田和弘さんの「非暴力抵抗こそ民を守る」という記事を見た。心強く、我が意を得たと思った。（4月20日）

「市民の声を聞く」

無作為で選ばれた 『市民懇談会』

先日、近畿市民派議員交流・学習会で、龍谷大学教授・只友景士さんの「市民参画で開く新しい公共」をテーマに講演を聴き学習した。その中で只友さんが関わった滋賀県守山市の「市民懇談会」が、とても興味深かったので報告する。

守山市では10年以上前から、市民から無作為抽出した市民に参加要請して「市民懇談会」を始めた。参加した市民委員が市の政策課題についてグループ討議をおこなって意見を述べあい、その結果をまとめて発表する。今では、パブリックコメント制度と並んで、市の政策を決定する際に必要な行政手続き制度になっているという。

この『市民懇談会』の委員は「無作為抽出」がミソなのだという。公募すると「決まった人」しか応募してこないが、無作為抽出で参加要請する

と、「普段来ない人たちが集まる。一部の人の意見だけでなく幅広い意見を聞き、「本当のところ、市民はどう考えているのか」を知ることができる。また、国籍や障がいなどを超えて、多様な人の参加が期待できるという。また委員の年代などの偏りが生じないよう、経験を踏まえて無作為抽出方法の工夫もやっているそうだ。

ところで無作為抽出で集まった人による話し合っていて、どうなんだろう？という心配の声もあったようだが、実は「非常に質の高いもの」だという。そして参加した市民委員も「参加して良かった。まちを良くするために関わりたいと思った」と、積極的な声が多いそうだ。

私は議員になる前から「市民参加でまちを変えよう！」をスローガンにしている。議員任せ、市役所まかせでなく、まちの大切なことには、市民が直接参加して関わること、そのために市民への全面的な情報公開を求めている。ぜひ今回学んだ手法を向日市でも活かさないか、皆さんとともに考え、取り組んでゆければと思う。（杉谷）

